



ジェンダー公正に関する ACC-18 への報告

2022 年 12 月

1. ジェンダー公正ディレクター（DfGJ）は、関係の変革を通じて男女の平等を実現するために活動している。世界中のアングリカン、エキュメニカルのパートナーと協力し、ジェンダー公正の促進、ジェンダーに基づく暴力の防止および犠牲者のケアの促進に注力している。この活動は、コミュニオンのあらゆるレベルで、そして国連のようなハイレベルのフォーラムを含む政府・非政府機関の両方で行われている。ジェンダー公正ディレクターは、インターナショナル・アングリカン・ウイメンズ・ネットワーク、インターナショナル・アングリカン・ファミリー・ネットワークおよびセーフ・チャーチ委員会の主任ディレクターである。この活動は、新型コロナウイルスの 18 か月間オンラインで実施された。
2. この活動の評価を始めるために、2021 年 6 月から 7 月にかけて、すべての管区でジェンダーに関する ACC 決議についての知識・態度・実践（KAP）に関するベースライン調査が実施された。31 の管区が、管区がジェンダーに関する ACC 決議を認識しているか、同意しているか、そして実施しているかを尋ねる調査に回答した。結果は次のとおりとなった。

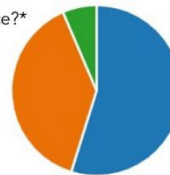
Q1. This Province knows about the ACC resolutions on gender?

Fully Aware	16
Partially Aware	11
Unaware of the resolutions	4



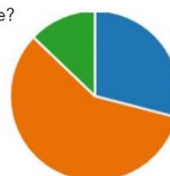
Q2 This Province agrees with the ACC resolutions on gender justice?*

Fully Supported	17
Partially Supported	12
Do Not Support	2



Q3 This Province is implementing the resolutions on gender justice?

Fully Implemented	9
Partially Implemented	18
Not Started to Implement	4



ACC Resolutions on Gender Justice
The ACC has recognised the need for the Anglican Communion to address gender justice, and take its place in serving the wider world, as expressed in its concerns and intentions in a number of ACC resolutions. These include:

- 13:31 Provide equal representation on each Anglican body of men and women and provide a gender focal point in each province. (2005)
- 14:33 Supports ending violence against women and allocating financial resources to do so ensuring gender budgeting
- 15:7, 10 Ending gender based violence and trafficking, supporting theological work on gender justice and appropriate materials
- 16:2 & 3 Reaffirms commitment to gender equality and justice with provinces offering financial support
- 17:2 & 3 (2019) Appoint a provincial link, and equipping God's people for gender justice

*After the first question a list of resolutions (right) was provided to enable respondents to reply to the further questions

「ジェンダー公正に対する認識の必要性は強調しすぎてはいけない。この管区は、社会的にも神学的にもジェンダー公正を十分に理解するためのプログラムを運営するために多くの助けを必要としている。我々の神学校や神学学校でジェンダー公正の訓練を可能にするためには、慎重なポリシーを提出する必要がある。さらに、ジェンダー公平担当の聖職者を含む様々な教会グループを対象とした会議やワークショップを開催すべきである。残念ながら、財源は常にこれらのプログラムの実施を妨げている。ジェンダー平等の必要性は、認識と実施という点において、管区では大きい。ウィリアム・ムチョンボ主教、中央アフリカ管区、ジェンダー公正調査。

3. この結果は、コミュニオン全体でジェンダー公正が達成されることを確実にするために克服すべき重要な障壁がいくつかあることを示している。例えば、決議を完全に支持している管区もあれば、まだ完全には実施されていない管区もある。また、多くの管区が少なくとも一部は決議案に納得していないという直接的な障壁もある。ジェンダー公正とその決議についての意識を高め、その実施に意図的に注力する必要があることは明らかである。ウィリアム・ムチョンボ主教が述べているように、このような意図的な活動に資金を提供する必要もある。
4. ACC-17 以降の主要な出版物としては、[「神の正義：神学とジェンダーに基づく暴力」](#)と [「家庭内暴力と新型コロナウイルス：教会がいかに対応できるか」](#)がある。「神の正義」は、アングリカン・コミュニオン全体の神学者と協力して作成された。この資料では、ジェンダーに基づく暴力を防止し、終わらせるための神学的基礎、それがどのように蔓延しているか、そしてキリスト教徒と教会がどのように対応できるかについて解説している。これは小さなグループや内省に使用できる実用的な資料である。これは英語、フランス語、ポルトガル語、スペイン語に翻訳され、それぞれ利用できる。家庭内暴力の資料は、新型コロナウイルスの世界的大流行とそれに伴う家庭内暴力の増加に対応して 2020 年に作成された。ケニア・ボンド主教区の Rev'd ドムニック・ミソロは、「男、男らしさ、ジェンダーに基づく暴力」のトレーニングに参加している 278 人の男性にこの資料を配布した。この資料は、アラビア語、英語、フランス語、ヒンディー語、ジュバ・アラビア語、スワヒリ語、韓国語、ポルトガル語およびスペイン語の 9 つの言語で利用することができる。
5. 国連女性の地位委員会は、世界中のジェンダー平等と正義を確保するための対応においてキリスト教徒と教会が関与できる機会をアングリカン・コミュニオンに提供し続けている。新型コロナウイルスの世界的大流行のため、国連 CSW はほとんどオンラインとなり、2020 年のセッションは 1 日に短縮された。NGO フォーラムは、NGO CSW が以前よりもはるか

に広く利用可能でアクセス可能になるという利点を生かして、オンラインで実施されている。オンラインのアプローチにより、多くのウェビナーは、アングリカン・キリスト教徒が自らのタイムゾーンで参加できるよう実施できるようになった。また、代表団については、マザーズ・ユニオンとの協力アプローチも確立しており、他の国連会議と連携し、アドボカシーとロビー活動のクロスオーバーも確保している。例えば、2022年のテーマは「気候変動、環境および災害リスクの軽減」であった。昨年12月のCOP26を踏まえて、環境問題やCOPに関与するための参加者が選ばれた。これはうまく機能し、グリーン・アングリカンの代表は、両方のイベントでレイチェル・マッシュ師が務めた。

6. 16 デイズ・オブ・アクティビズムは、ジェンダーに基づく暴力という、これまでになく蔓延し、油断のならない問題への意識を高めるために毎年非常に注目されている。毎年11月25日から12月10日の世界人権デーまで開催され、コミュニオンの多くの主教区や教会は、さまざまな方法でその時期に活動している。若い人たちは、映画、トレーニングワークショップ、マーチ、レッドチェアプロジェクト、ソーシャルメディアキャンペーンなどの活動を行っている。国際アングリカン女性ネットワークは、啓発と教会に参加を促す上で重要な役割を果たしている。
7. Lambeth Conference は、管区内のジェンダー公正問題に関して主教とつながるための重要な機会となった。DfGJ は、ジェンダー公正、月経およびセーフ・チャーチに関するセミナーを開催し、同時に保護と安全な教会、配偶者のためのアイデンティティに関するセッション、配偶者の役割および月経に関する全体会議を開催した。また、「フロントライン」イニシアチブへの支援も行われた。リソースとIAWN、IAFN およびセーフ・チャーチ委員会のスタンドへのスタッフ配置は、ネットワーキングと議論のための素晴らしい機会を生み出した。大きなニーズがあったことから、これは将来の戦略に取り入れられることになるであろう。ジェンダー公正セミナーは、他の人々が自分の活動を紹介する機会を作った。GBV（ジェンダーに基づく暴力）の予防と終焉に対する組織的反応を示すメルボルン主教区の映画や、GBVを終わらせるために男性と協力しているボンド主教区の映画は好評を博した。マザーズ・ユニオン、ウーマン・オン・ザ・フロントラインおよびIAWNの活動も共有された。
8. 2022年10月と11月のカナダ・アングリカン・チャーチへの訪問は、DfGJの役割がコミュニオンの管区にどのように役立ち得るかを示した。リンダ・ニコルズ大主教の要請により、この旅行は虐待の犠牲者の保護とトラウマインフォームドケアに重点を置いたものであった。ジェームズ・スミス・クリー・ネーションの複数殺人事件の数週間後のことであり、そしてChurch Too運動を踏まえ、この管区は、主教会、総会議、教区セクレタリーおよびチャン

セラーとのウェビナー、トレーニングおよび協議を行い、これらの人全員が教会全体として認識し、対応できるようにした。これは、ポリシーと手順を適応・調整することにより、アプローチと対応の際にトラウマインフォームドな方法をさらに重視するという目的を持ったものでもあった。別の例では、アイルランド教会はジェンダーに基づく暴力を防止し、終わらせるための訓練シリーズを制作した。ジェンダー公正ディレクターは、「ジェンダーに基づく暴力 - グローバルなアングリカン・コミュニオンの対応」というセッションを撮影し、これに貢献した。このパイロットコースは、将来他の管区でも開設できるかどうか検討・評価される。

9. Mothers' Union、アングリカン連合、ウーマン・オン・ザ・フロントラインとの連携は、特にジェンダーに基づく暴力と保護に関して引き続き促されている。さらに、エキュメニカルおよび宗教組織との関係を維持し、成長させることで、ジェンダー公正の問題に関する協働と協力を引き続き確保している。DfGJ は、前述のアングリカン関連慈善団体、そしてさらに世界教会協議会、家庭内暴力を終わらせるためのキリスト教ネットワーク (CNEDA)、サイド・バイ・サイド (SBS)、アクトアライアンスなど国際的な活動を行っている団体に専門知識、助言、経験およびアドボカシーネットワークを提供している。

10. DfGJ は、IAWN、IAFN、安全教会委員会のリンクディレクターとして、専門家の助言、指導および戦略的指針を引き続き提供している。

11. ACO のレビューの結果、DfGJ はこの活動のための資金の 30% を調達する必要があった。この数字は 2022 年に達成された。これは 2023 年に 50% に増えている。常任委員会は、この役割が ACC18 以降も継続するかどうか、もしそうなら、資金調達がポストホルダーの時間の 10~20% を要することに留意しつつ、活動を継続するためにどのようなコア資金が割り当てられるかについて戦略的決定を行う必要がある。

12. ジェンダー公正の活動は、ほとんどが女性によって行われており、その結果、女性の問題であると認識されている。しかし、女性や少女に不公平な結果をもたらす社会的・文化的・宗教的な規範に挑戦すること、そして男性や男の子に関する固定観念に挑戦することは、私たちキリストの弟子として不可欠なことである。

マンディ・マーシャル

ジェンダー公正ディレクター